USB MO ディスクドライブ

MO-CU2 シリーズ

ユーザーズマニュアル

本書の使いかた

本書を正しくご活用いただくための表記上の約束ごとを説明します。

表記上の約束

注意マーク .... ⚠注意 **に続く説明文は、製品の取り扱いにあたって特に注意すべき事項です。この注意事項に従わなかった場合、身体や製品に損傷を与える恐れがあります。**

次の動作マーク .... ↘次へ **に続くページは、次にどこのページへ進めば良いかを記しています。**

文中の用語表記

- **文中[ ]で囲んだ名称は、ダイアログボックスの名称や操作の際に選択するメニュー、ボタン、チェックボックスなどの名称を表しています。**
- **本書では、Microsoft社 Windows Millennium EditionをWindowsMeと表記しています。**
- **本書では、Microsoft社 Windows98 Second EditionをWindows98SEと表記しています。**

目 次

1 はじめに

本製品を使用する前に知っておいていただきたいことを説明しています。

特長

● USBコネクタ(シリーズA)に接続可能
パソコンやUSBハブのUSBコネクタ(シリーズA)に接続できます。
※ USBコネクタが装備されていないDOS/V機を使用している場合は、弊社製USBインターフェース(別売)を使用してください。

● USB2.0に対応
USB2.0で規定されているHSモード(最大転送速度480Mbps理論値)で、FSモード(最大転送速度12Mbps理論値)に対応しています。HSモードで使用するには、USB2.0に対応したインターフェース(またはパソコン)が必要です。

● PC連動AUTO電源機能を搭載
パソコン本体の電源ON/OFFに合わせて本製品の電源も自動的にON/OFFします。

● ダイレクトオーバーライト方式(DOW)に対応
オーバーライト(OW)に対応したMOディスクでダイレクトオーバーライト方式による高速書き込みが可能です。

● メディアID付きMOディスクに対応
メディアID付きMOディスクを使用することで、ホームページなどで配信されている音楽・映像データなど、著作権を保護したまま保存することができます。【P33参照】

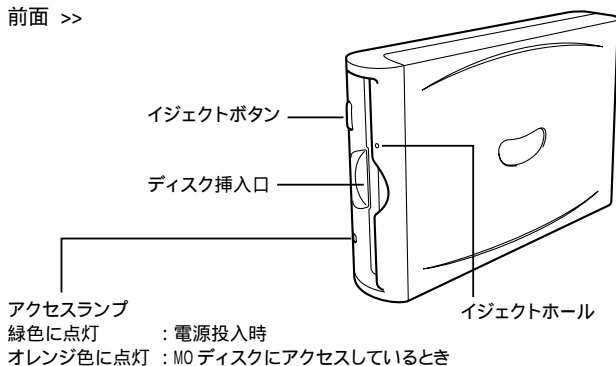
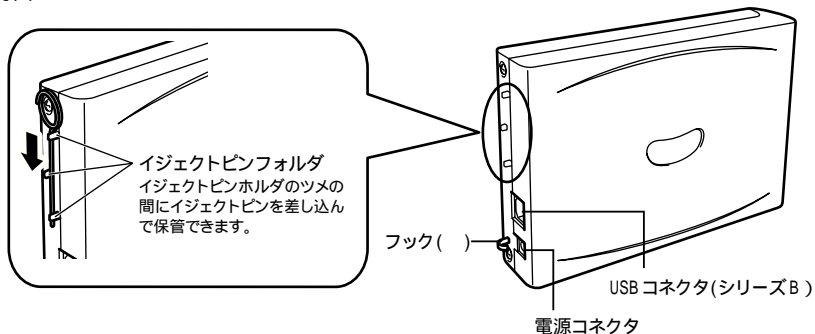
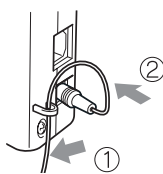
● 縦置き・横置き両対応
本製品は縦置きの向きでも横置きの向きでも使用できます。【別紙「はじめにお読みください」参照】

● Windows・Macintosh両対応
本製品は以下の環境で使用できます。

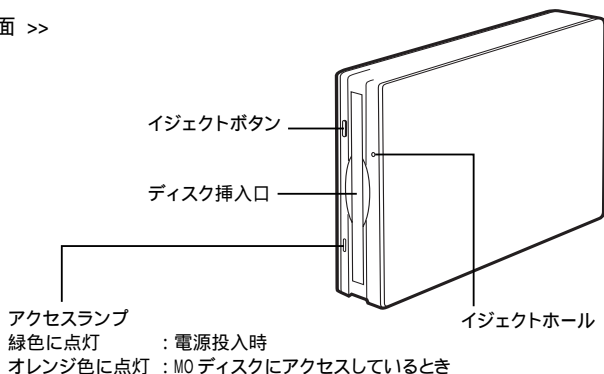
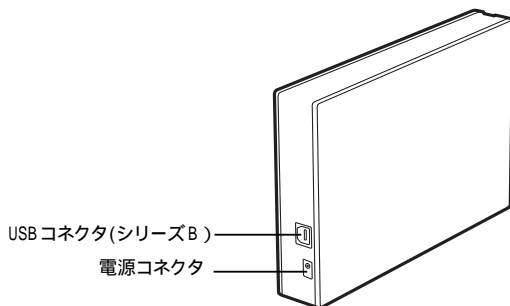
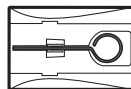
USBインターフェースを標準搭載、または弊社製USBインターフェースを搭載した
DOS/V機(OADG仕様)、PC98-NXシリーズ
WindowsXP/Me(Millennium Edition)/98SE(Second Edition)/98/2000、

USBインターフェースを標準搭載したMacintosh
Mac OS 8.6/Mac OS 9.0.4以降/Mac OS X 10.0.4以降

各部の名称

MO-CX640U2をお買い求めの場合
<< 前面 >>
イジェクトボタン
ディスク挿入口
アクセスランプ
緑色に点灯　　　：電源投入時
オレンジ色に点灯：MO ディスクにアクセスしているとき
イジェクトホール
<< 背面 >>
イジェクトピンフォルダ
イジェクトピンホルダのツメの間にイジェクトピンを差し込んで保管できます。
フック(※)
USB コネクタ(シリーズ B)
電源コネクタ
※フックの使いかた
AC アダプタのケーブル抜け防止のため、左図のようにケーブルをフックにひっかけて AC アダプタのプラグを本製品差し込むことをおすすめします。
フックを折らないように次のことに注意してください。
・本製品を落としたり強い衝撃を与えない。
・ケーブルを無理な力で引っ張らない。
②
①

MO-CR640U2をお買い求めの場合

1

はじめに

電源のON/OFF

本製品の電源は、「PC連動AUTO電源機能」によってパソコン本体の電源のON/OFFに合わせて自動的にON/OFFになります。

⚠注意
- **本製品に電源スイッチはありません。パソコンのUSBコネクタが使用できる状態であれば、接続すると自動的に電源がONになります。**
- **付属のACアダプタは必ず本製品に接続してください。USBケーブルだけを接続しても本製品を使用できません。**
- **パソコンの電源スイッチをOFFにしてから本製品の電源がOFFになるまでに時間がかかることがあります。**
- **お使いのパソコン環境によっては、パソコンの電源スイッチをOFFにしても本製品の電源がOFFならないことがあります。そのようなときは、本製品からUSBケーブルを取り外してください。**

2 セットアップ

本製品のセットアップ手順を説明しています。

セットアップのながれ

本製品のセットアップ手順は次のとおりです。

Windows 搭載パソコン

メモ **詳しい手順は、別紙「はじめにお読みください」を参照してください。**

本製品の電源コネクタにACアダプタを接続し、ACアダプタをコンセントに接続する

▼

パソコンの電源スイッチをONにする

▼

付属のユーティリティCDをCD-ROMドライブにセットする

▼

「簡単セットアップ」が起動したら、画面の指示に従って操作する

Macintosh

Mac OS 8.6/9	Mac OS X

本製品の電源コネクタにACアダプタを接続し、ACアダプタをコンセントに接続する

メモ 詳しい手順は、別紙「はじめにお読みください」を参照してください。

▼

パソコンの電源スイッチをONにする

▼ (Mac OS 8.6/9)

付属のユーティリティCDをCD-ROMドライブにセットする【P9】

▼

MO-CU2シリーズユーティリティを実行し、パソコンを再起動する

▼ (Mac OS X)

Mac OS Xでは本製品を取り付けてそのまま使用できます。

▼

本製品にUSBケーブルを接続する

▼

パソコンにUSBケーブルを接続する

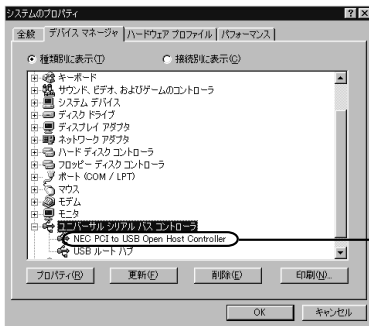
● PC98-NXシリーズを使用しているときは、CyberTrio-NXが「アドバンストモード」になっていることを確認してください。
アドバンストモードになっていないと、本製品のドライバをインストールできません。次の手順でアドバンストモードに変更してください。

・モードの確認方法
タスクバーに表示されているCyberTrio-NXのインジケータ の色で確認できます。

赤	アドバンストモード	設定を変更する必要はありません。
黄	ベーシックモード	アドバンストモードに設定を変更してください。
緑	キッズモード／カスタムモード	アドバンストモードに設定を変更してください。

・「CyberTrio-NX」のモードの変更方法
再起動後もアドバンストモードになるように設定を変更します。詳しい手順はパソコン本体のマニュアルを参照してください。
① [スタート]－[プログラム(P)]－[CyberTrio-NX]－[Go To アドバンストモード]の順に選択します。
アドバンストモードに切り替わります。
② [スタート]－[プログラム(P)]－[CyberTrio-NX]－[CyberTrio-NX セットアップ]の順に選択します。
③ [CyberTrio-NXのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。[アドバンストモード]を選択して[OK]をクリックします。

以上でアドバンストモードに設定されました。
本製品のドライバをインストールした後はアドバンストモード以外のモードも使用できます。任意のモードに変更してください。

● Windows98(Second Editionを除く)を使用しているときは、次の確認を行ってください。
① [マイコンピュータ]アイコンを右クリックします。
②メニューが表示されたら、[プロパティ(R)]をクリックします。
③ [デバイスマネージャ]タブをクリックします。
④ [ユニバーサル シリアル バス コントローラ]の下に表示されているデバイス名を確認します。

［NEC PCI to USB Open Host Controller］と表示されている場合は、Windows98 System updateをインストールする必要があります。その他のデバイス名が表示されている場合は、インストールは不要です。

※ Windows98 System updateは、マイクロソフト社のホームページ
(http://windowsupdate.microsoft.com/)からダウンロードできます。

2
セットアップ

Windows搭載パソコンでのセットアップ手順

付属のユーティリティ「簡単セットアップ」の指示に従ってセットアップを行います。詳しい手順は、別紙「はじめにお読みください」を参照してください。

● 本製品のユーティリティがインストールされると、[プログラム] フォルダのなかの[BUFFALO]フォルダに [MOユーティリティ] フォルダが追加され、次のユーティリティが登録されます。

- MOフォーマット【P17参照】
- MOコピー【P25参照】
- ダストシュート【P27参照】
- アンインストーラ【P32参照】

※「MOコピー」と「ダストシュート」は、WindowsMe/98SE/98用のユーティリティです。WindowsXP/2000ではインストールされません。

● 本製品のドライバがインストールされると、[デバイス　マネージャ] に次のデバイスが追加されます。

使用OS	追加場所	追加デバイス名
WindowsMe	ユニバーサル シリアル バス コントローラ	USB大容量記憶装置デバイス(注)
	ディスクドライブ	ユニットドライブ名
	記憶装置	USB光ディスク
Windows98SE/98	ユニバーサル シリアル バス コントローラ	BUFFALO USB2/SCSI Bridge Adapter
	ディスクドライブ	ユニットドライブ名
	SCSIコントローラ	BUFFALO USB2/SCSI Mass Storage Controller
WindowsXP/2000	USB (Universal Serial Bus) コントローラ	USB大容量記憶装置デバイス
	ディスクドライブ	ユニットドライブ名
	記憶域ボリューム	汎用ボリューム

(注) 緑色の丸に白地で?マークが表示されていますが、これはWindowsMeが汎用のドライバをインストールしたためです。本製品は正常に動作していますので、そのまま使用してください。

メモ [デバイス　マネージャ] は次の方法で表示できます。

WindowsMe/98SE/98 .. [マイ コンピュータ] アイコンを右クリック→ [プロパティ(R)] をクリック→ [デバイス　マネージャ] をクリック

WindowsXP .... [スタート] をクリック→ [マイコンピュータ] を右クリック→ [管理(G)] をクリック→ [デバイス　マネージャ] をクリック

Windows2000 ..... [マイ コンピュータ] アイコンを右クリック→ [管理(G)] をクリック→ [デバイス　マネージャ] をクリック

Macintoshでのセットアップ手順

Macintoshに本製品をセットアップします。

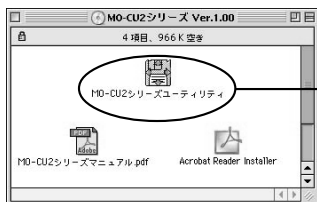
⚠注意　あらかじめ本製品に縦置き用スタンド（またはゴム足）、ACアダプタを取り付けておいてください。

1 **パソコンの電源スイッチをONにします。**

Mac OS Xをお使いの方は、P10手順7以降に従って本製品をパソコンに取り付けてください。
Mac OS Xではユーティリティをインストールしません。

2 **本製品付属のユーティリティCDをCD-ROMドライブにセットします。**

⚠注意
・Mac OS 8.6/9をお使いの方は、本製品をパソコンに接続する前に手順3以降に従ってユーティリティを必ずインストールしてください。
・起動中のアプリケーションはすべて終了させてください。

3

アイコンをダブルクリックします。

4 **「処理を選択してください」と表示されたら、［インストール］をクリックします。**

メモ　すでにインストールされているパソコンの場合、［アンインストール］が表示されますが、［インストール］をクリックしてインストールを続行してください。アンインストールする必要はありません。

5 **「インストール終了後に再起動しますがよろしいですか。」と表示されたら、［はい］をクリックします。**

6 **「インストールに成功しました」と表示されたら、［再起動］をクリックします。**

以上で本製品のドライバのインストールは完了です。再起動後、次の手順で本製品をパソコンに接続します。

次のページへ続く

7 付属のUSBケーブルを本製品のUSBコネクタ（シリーズB）に接続します。

USBケーブルの2つのコネクタは、それぞれ形状が異なります。形状をよく確認して接続してください。

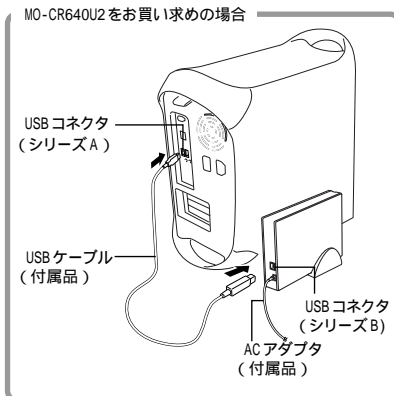
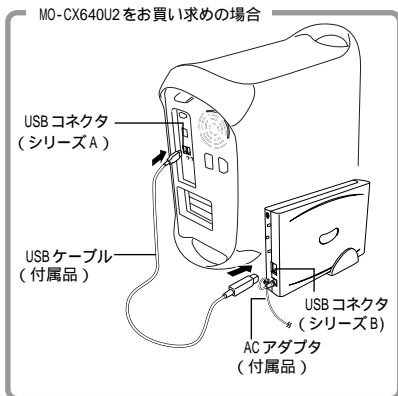
＜USBケーブルのコネクタ形状＞

シリーズA
（パソコン側に接続）

シリーズB
（本製品に接続）

8 パソコンのUSBコネクタ（シリーズA）にUSBケーブルを接続します。

MO-CX640U2をお買い求めの場合

MO-CR640U2をお買い求めの場合

以上で本製品のセットアップは完了です。

3 本製品の使いかた

使用時の注意

Windows 搭載パソコンと Macintosh に共通の注意

● MOディスクのフォーマット（初期化）について
MOディスクは、使用する前にフォーマットする必要があります。【P15】

● パソコン本体と周辺機器のマニュアルも必ず参照してください。

● 本製品はホットプラグに対応しています。
本製品やパソコンの電源スイッチがONのときでもUSBケーブルを抜き差しできます。

⚠注意 **アクセスランプがオレンジ色に点灯しているときは、絶対にUSB機器（本製品含む）からUSBケーブルを抜き差ししないでください。MOディスク内のデータが破損するおそれがあります。**

● USBケーブルを抜くときは
・本製品は必ずP14に記載の手順で取り外してください。
・USBケーブルを抜く前に本製品から必ずMOディスクを取り出してください。

● 本製品からOSを起動（ブート）することはできません。

● パソコン本体の省電力モードを無効にしてください。
サスペンド機能、レジューム機能、スリープ機能などは使用しないでください。MOディスクが認識できなくなることがあります。また、パソコン本体に本製品を接続していると、省電力モードに移行できないことがあります。

● MOディスクにラベルを貼るときは、指定の位置からはみ出さないようにしてください。
本製品内でラベルがはがれると、MOディスクが取り出せなくなることがあります。
取り出せなくなったときは無理に取り出そうとせず、そのまま弊社修理センターまで修理をご依頼ください。

● 本製品の接続直後にアクセスランプがオレンジ色に点灯しているときは、パソコンからアクセスしないでください。
本製品の準備ができていないため、アクセスエラーが発生します。

● 複数のUSB機器と併用したいときは、弊社製USBハブ（別売）をお使いください。

次のページへ続く

Macintoshだけに関する注意

● DOSフォーマットのMOディスクについて
次の場合、DOSフォーマットのMOディスクを本製品にセットすると、Mac OSに標準に付属しているフォーマッタが起動します。その場合は、[取り出し]をクリックしてMOディスクを取り出してください。

・540MBを超える容量のMOディスクを挿入した
DOSフォーマットの640MBのMOディスクは、Mac OSでは使用できません。
※DOSフォーマットのMOディスクの場合は、128MB/230MB/540MBが使用できます。

・File Exchangeが無効になっている
File Exchangeの設定が無効になっていると、DOSフォーマットのMOディスクは使用できません。
※File Exchangeは[アップルメニュー]－[コントロールパネル]－[File Exchange]で設定できます。DOSフォーマットのMOディスクを使用するには、[File Exchange]の[PC Exchange]タブ内のチェックボックスが3箇所すべてチェックされている必要があります。

● Mac OSを終了するときは
お使いのパソコンによっては、Mac OSを終了してもMOディスクが自動的に排出されないことがあります。Mac OSを終了させる前に本製品から必ずMOディスクを取り出してください。

● カードリーダーと併用する場合
パソコンを起動（再起動）するときは、必ずカードリーダーからメディア（スマートメディアやコンパクトフラッシュなど）を取り出した状態で行ってください。

MOディスクの挿入

MOディスクのラベル面を左に向け、ディスク挿入口に挿入します。

正しく挿入されると、アクセスランプがオレンジ色に3～4秒間点灯します。

⚠注意 パソコンからMOディスクへのアクセスは、アクセスランプが緑色に点灯しているときに行ってください。オレンジ色に点灯しているときは、MOディスクにアクセスできません。

MOディスクの取り出し

＜Windows搭載パソコンの場合＞

本製品のアクセスランプが緑色に点灯していることを確認し、イジェクトボタンを押します。

MOディスクが2～3cm出てきたら手で取り出します。

＜Macintoshの場合＞

デスクトップにあるMOディスクのアイコンをゴミ箱にドラッグ&ドロップすれば、MOディスクが排出されます。本製品のイジェクトボタンは通常使用しません。

MOディスクが2～3cm出てきたら手で取り出します。

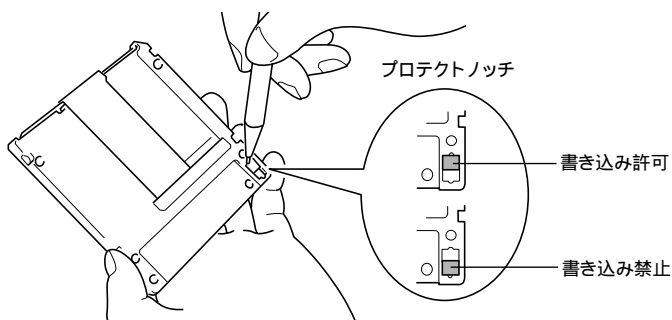
⚠注意
・アクセスランプがオレンジ色に点灯しているときは、絶対にイジェクトボタンを押さないでください。MOディスク内のデータが破損するおそれがあります。
・アクセスランプが点灯していないときは、イジェクトボタンを押してもMOディスクは排出されません。パソコンの電源スイッチをOFFにする前に、本製品からMOディスクを取り出しておいてください。MOディスクを取り出せないときは、「MOディスクが取り出せないとき」【P13】を参照して、強制的にMOディスクを取り出してください。

MO ディスクが取り出せないとき

アクセスランプが消灯しているときは、イジェクトボタンを押してもMOディスクを排出できません。その場合は、付属のイジェクトピンをイジェクトホールに差し込み、強制的にMOディスクを排出してください。

⚠注意 イジェクトピンを使用するときは、本製品をパソコンから取り外してから行ってください。

MO ディスクを書き込み禁止にするとき

MOディスクに記録したデータを誤って消去してしまわないように、MOディスクへの書き込みを禁止できます。
ボールペンなどを使って、MOディスクの背面にある「プロテクトノッチ」を書き込み禁止の位置に移動させてください。
再度データを書き込むときは、プロテクトノッチを書き込み許可の位置に移動させます。

本製品の取り外しかた

パソコンの電源スイッチがONのときは、次の手順で本製品を取り外します。

メモ　パソコンの電源スイッチがOFFの時は、そのまま取り外せます。

注意　本製品を取り外す前に、必ず本製品からMOディスクを取り出してください。【P12「MOディスクの取り出し」】

WindowsXP/Me/2000

注意　必ず次の手順に従って取り外してください。次の操作を行わずに本製品を取り外すと、エラーメッセージが表示されます。

1 本製品からMOディスクを取り出します。

2 タスクバーのタスクトレイに表示されているアイコン をクリックします。

3 表示されたメニューから次のメッセージをクリックします。

WindowsXP:[USB大容量記憶装置デバイス-ドライブ(F:)を安全に取り外します]
WindowsMe:[USB光ディスク-ドライブ(F:)の停止]
Windows2000:[USB大容量記憶装置デバイス-ドライブ(F:)を停止します]

下線部には、本製品に割り当てられたドライブ名が表示されます。

※画面はWindowsMeの例です。

4 WindowsXP/2000では、「USB大容量記憶装置デバイスは安全に取り外すことができます」、WindowsMeでは「USB光ディスクは安全に取り外すことができます」と表示されたら、[OK]をクリックします。

5 本製品を取り外します。

Windows98SE/98、Macintosh

本製品からMOディスクを取り出した後、パソコンから本製品を取り外します。

メモ　Windows98SE/98で使用する場合、タスクトレイに表示されるアイコン は、USBドライバの表示です。取り外すときこのアイコンを操作する必要はありません。そのまま取り外すことができます。

MOディスクのフォーマット

本製品にセットしたMOディスクをフォーマットする方法を説明します。

※ フォーマットとは、MOディスクなどの記憶メディアをパソコンで使用できるように処理（初期化）することです。

フォーマット時の注意

他のアプリケーション（エクスプローラなど）が起動しているときは終了してください。

- MOディスクに記載されている容量は、1MB＝1,000²byteで計算されています。
  ただし、Windows上でフォーマットするときやプロパティでMOディスクの容量を確認するときは、1MB＝1,024²byteで計算されるため、表示される容量が異なります。

- MOディスクによっては、フォーマットに数十分かかるものがあります。
  本製品の動作が停止しているように思われても、アクセスランプがオレンジ色に点灯している間はフォーマットしています。そのままフォーマットが終わるまで待ってください。

Windows搭載パソコンでのフォーマット

Windowsには標準でフォーマッタが添付されていますが、異なるOS間でMOディスクを共有して使用する場合に互換性による問題が生じることがあります。MOディスクをフォーマットするときは、インストールされたフォーマッタ「MOフォーマット」を使用してください。
ここでは「MOフォーマット」の使いかたや使用上の注意について説明しています。

MOフォーマットに関する注意

- MOフォーマットを使用すると、MOディスク内のデータは全て消去されます。大切なデータを必ずバックアップしてからフォーマットしてください。

- MOフォーマットではパーティションを作成できません。また、リムーバブルメディア以外（ハードディスクなど）のフォーマットもできません。

- 本製品以外でのMOフォーマットの使用は、弊社では保証しておりません。

- FAT32フォーマットされたディスクは、WindowsMe、Windows98SE/98、Windows95（4.00.950 B/4.00.950 C）、WindowsXP/2000でのみ使用できます。

- MOフォーマットの起動中は、エクスプローラや［マイ コンピュータ］からMOディスクの内容を見ないでください。
  見ようとすると、「ファイルシステムエラーです」というエラーメッセージが表示されます。その場合はMOフォーマットを終了し、再度エクスプローラや［マイ コンピュータ］からMOディスクの内容を見てください。

次のページへ続く

● WindowsXP/2000をお使いの方へ

・WindowsXP/2000のフォーマット機能でフォーマットすれば、NTFS形式でMOディスクをフォーマットできます（※）が、MOディスクを想定したフォーマット形式でないため、FAT16またはFAT32でフォーマットすることをおすすめします。

※：WindowsXPをお使いの場合は、書き込みキャッシュを有効にする必要があります。P40「WindowsXPでの書き込み速度が遅い」を参照して書き込みキャッシュを有効にしてください。

・MOフォーマットでは、NTFSのフォーマットはできません。

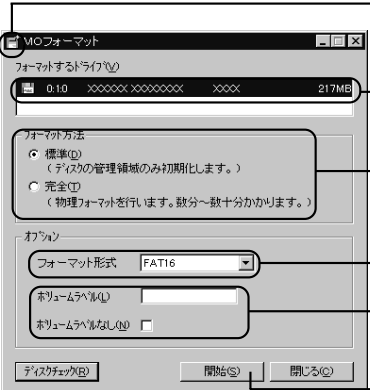
・MOフォーマットでフォーマットされたMOディスクをWindowsXP/2000のフォーマット機能で再フォーマットする場合、いったんNTFS形式でフォーマットしてから希望のフォーマット形式でフォーマットしてください。

・NTFS形式フォーマットのMOディスクをWindowsXP/2000で使用すると、そのMOディスクはWindowsXP/2000でしか読み書きできなくなります。

・NTFS形式フォーマットのMOディスクを書込み禁止にした場合、書き込みだけでなく読み出しもできません。

・Ver.6.10以前のバージョン（＊）のAplix社製「WinCDR」（CD−R/RWライティングソフトウェア）がインストールされている環境では、MOフォーマッタが正常に動作しません。株式会社アプリックスのホームページ（http://www.aplix.co.jp/）から、最新ドライバ（aplix2k.sys）をダウンロードし、インストールしてください。

＊：WinCDRを起動し、メニューから、[ヘルプ]-[バージョン情報]を選択することにより確認できます。

MO フォーマットの起動と終了

・起動方法 ..... ［スタート］－［（すべての）プログラム］－［BUFFALO］－［MO ユーティリティ］－［MOフォーマット］を選択してください。

・終了方法 ..... MOフォーマットの［閉じる］をクリックしてください。

フォーマット手順

次の手順でMO ディスクをフォーマットします。

⚠注意
- フォーマットすると、MOディスク内のデータはすべて消去されます。フォーマットする前に、消去してもよいデータか必ず確認してください。
- フォーマット中はマウスやキーボード、電源スイッチ、リセットスイッチを一切操作しないでください。
- MOフォーマットを起動する前に、本製品をパソコンに接続しておいてください。
- 誤って他のMOドライブを操作してしまわないために、MOドライブは1台だけ接続することをお勧めします。

1 **フォーマットしたいMO ディスクを本製品に挿入し、MO フォーマットを起動します。**
【P17「MO フォーマットの起動と終了」】

2

ここをクリックして［バージョン情報］を選択すると、MOフォーマットのバージョン情報が表示されます。

① フォーマットするMO ドライブ（本製品）を選択します。

② フォーマット方法を選択します。

③ フォーマット形式を選択します。

④ 必要に応じてボリュームラベルを入力します（最大半角英字 11 文字）。

⑤ ［開始］をクリックします。

・ドライブ情報 .... 0:1:0 XXXXXXX XXXXXXXX XXXX 230MB

<ホストアダプタ番号>:<ターゲット ID>:<LUN 番号>
MO ドライブの名称　MO ディスクの容量

・フォーマット方法 .... ［標準］：論理フォーマットのみ行います（通常はこちらを選択します）。
［完全］：物理フォーマットを行い、その後に論理フォーマットを行います。

・フォーマット形式 .... ［FAT16］と［FAT32］が選択できます。
※ FAT32フォーマットされたMOディスクは、WindowsMe/98SE/98、、Windows95（4.00.950 B/4.00.950 C）、WindowsXP/2000でのみ使用できます。

・ディスクチェック .... 表示内容を更新します。MOフォーマットを起動した後にMOディスクを挿入した場合や、MOディスクを入れ替えた場合にクリックします。

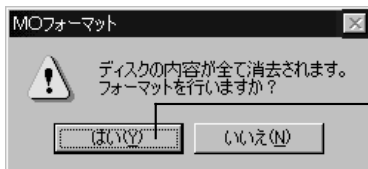
次のページへ続く

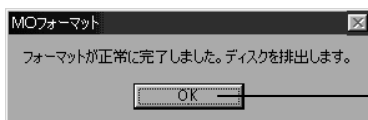
フォーマット方法で[完全]を選択している場合

「物理フォーマットは数分から数十分を要します。(以下略)」というメッセージが表示されます。物理フォーマットしてもよければ、[はい]をクリックします。

物理フォーマット中は経過時間が表示されます。

⚠注意 お使いの環境によっては、経過時間の表示が進まないことがあります。本製品のイジェクトボタンが点灯していれば物理フォーマットは動作していますので、完了のメッセージが表示されるまでお待ちください。

3

⚠注意 フォーマット中はマウスやキーボード、電源スイッチ、リセットスイッチ、USBケーブル、ACアダプタの操作を一切行わないでください。

4

MOディスクが排出されます。

以上でフォーマットは完了です。

Mac OS 8.6/9 でのフォーマット

Mac OS 8.6/9におけるフォーマット手順です。
Mac OS X以降の手順は、次項をお読みください。

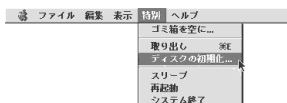
1 フォーマットしたいMOディスクを本製品に挿入します。

未フォーマットのMOディスクや、540MBを超える容量のDOSフォーマットMOディスクを挿入した場合は、フォーマッタが自動的に起動します。P19の手順3以降に従って操作してください。

2 MOディスクのアイコンが反転表示になっていることを確認し、[特別]－[ディスクの初期化...]を選択します。

次のページへ続く

3

このディスクは、このコンピュータで読み込むことができません。ディスクを初期化しますか？
名 前：名称未設定
フォーマット：Mac OS 標準 217.9 MB
取り出し　初期化

① 必要に応じてMOディスクの名前を入力します。

② フォーマット形式を選択します。(*)

③［初期化］をクリックします。

MOディスクがフォーマットされます。

* 選択可能なフォーマット形式は次のとおりです。

Mac OS標準 .... Mac OS8.1よりも前のシステムでも使用できます。
（ボリュームラベル：最大半角英数字27文字/全角13文字まで）

Mac OS拡張 .... Mac OS8.1よりも前のシステムでは使用できません。
（ボリュームラベル：最大半角英数字27文字/全角13文字まで）

DOS .... 使用しないでください。

Universal Disk Format .... 使用しないでください。

以上でフォーマットは完了です。

Mac OS X 10.0.4 でのフォーマット

Mac OS Xの「Disk Utility」でフォーマットします。

⚠注意 MOディスクをMac OS 8.6/9、Mac OS Xで併用する場合は、Mac OS 8.6/9でディスクをフォーマットしてください。

1 デスクトップの[Macintosh HD]アイコンをダブルクリックします。

2 [Applications]フォルダの中の[Utilities]フォルダを開きます。

3

[Disk Utility］をダブルクリックします。
[Disk Utility］が起動します。

4 フォーマットするMOメディアを挿入します。

次のページへ続く

4

MOディスクのフォーマット

5

① ［Drive Setup］をクリックします。

② フォーマットするディスクをクリックします。

③ フォーマットするディスクの情報を確認します。ディスクの情報はメディアによって異なります。

6

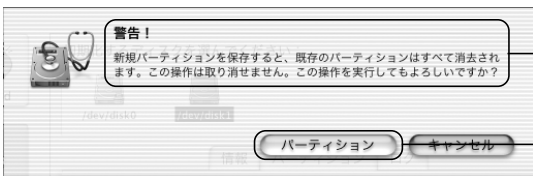
① ［パーティション］タブをクリックします。

② MOディスクに名前をつける場合はここに入力します。

③ フォーマット形式を選択します。

④ ［パーティション］をクリックします。

メモ **選択可能なフォーマット形式は次のとおりです。**
Mac OS 標準:Mac OS 8.1よりも前のシステムで使用できます。
Mac OS 拡張:Mac OS 8.1よりも前のシステムでは使用できません。
Unixファイルシステム:使用しないでください。

7

① メッセージを読みます。

② ［パーティション］をクリックします。

MOディスクがフォーマットされます。フォーマットが終わったら「Disk Utility」は終了してください。

Mac OS X 10.1でのフォーマット

Mac OS Xの「Disk Utility」でフォーマットします。

⚠注意 **MOディスクをMac OS 8.6/9、Mac OS Xで併用する場合は、Mac OS 8.6/9でディスクをフォーマットしてください。**

1 **デスクトップの[Macintosh HD]アイコンをダブルクリックします。**

2 **[Applications]フォルダの中の[Utilities]フォルダを開きます。**

3

4 **フォーマットするMO ディスクを挿入します。**

5

次のページへ続く

6

Disk Utility
1 ディスク と 0 ボリューム が選択されました
情報 First Aid 消去 パーティション RAID
38.35 GB IBM-
55.90 GB WDC
217.93 MB
ディスクの説明： BUFFALO
全体のサイズ： 217.93 MB (228,518,400 バイト)
接続バス： FireWire
接続 ID： 18056192853016880
変更できないようにするにはカギをクリックします。

① フォーマットするディスクの情報を確認します。ディスクの情報は挿入したディスクによって異なります。

② ［パーティション］タブをクリックします。

7

① MOディスクに名前をつける場合はここに入力します。

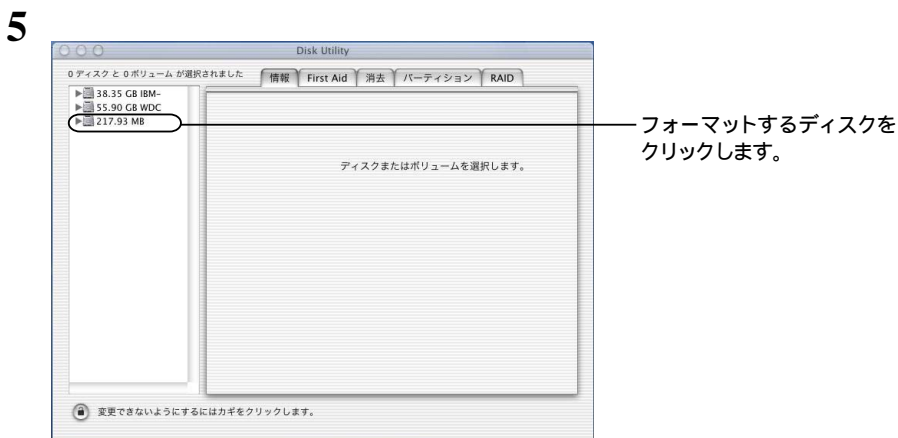
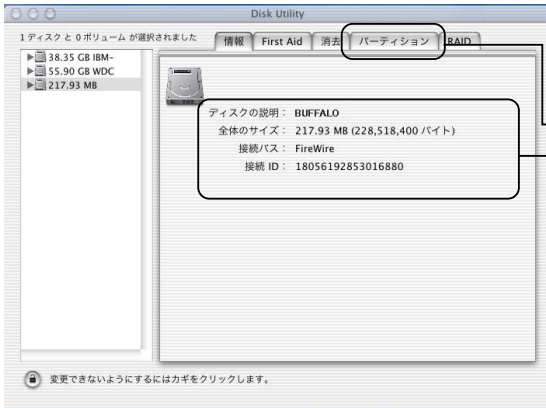
② フォーマット形式を選択します。

③ □をクリックし、チェックをはずします。

④ ［OK］をクリックします。

メモ　選択可能なフォーマット形式は次のとおりです。
Mac OS 標準:Mac OS 8.1よりも前のシステムで使用できます。
Mac OS 拡張:Mac OS 8.1よりも前のシステムでは使用できません。
Unixファイルシステム:使用しないでください。

8

① メッセージを読みます。

② ［パーティション］をクリックします。

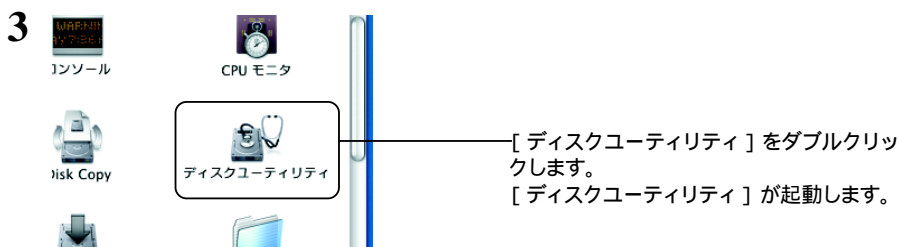
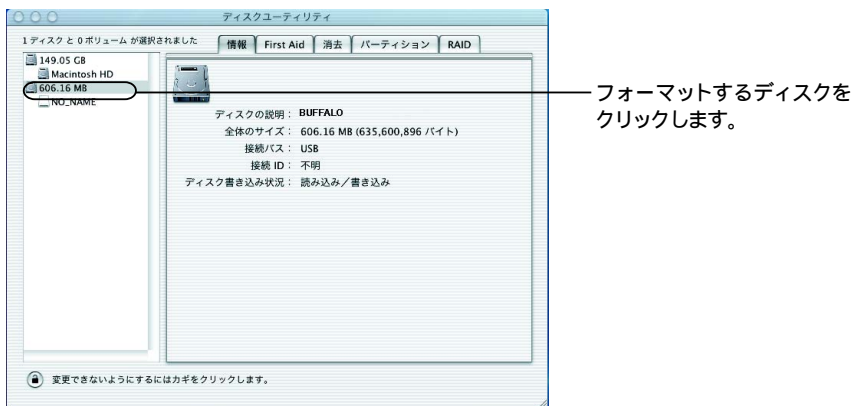
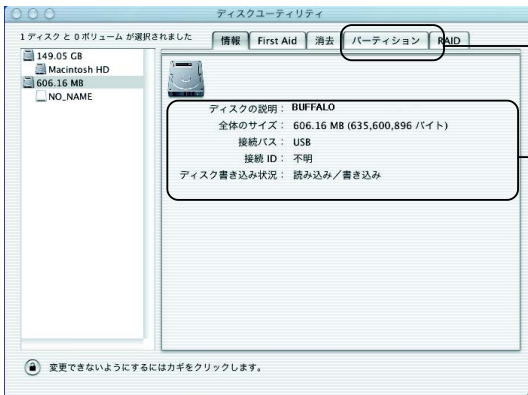
MO ディスクがフォーマットされます。フォーマットが終わったら「Disk Utility」は終了してください。

Mac OS X 10.2以降でのフォーマット

Mac OS Xの「ディスクユーティリティ」でフォーマットします。

⚠注意 MOディスクをMac OS 8.6/9、Mac OS Xで併用する場合は、Mac OS 8.6/9でディスクをフォーマットしてください。

1 デスクトップの[Macintosh HD]アイコンをダブルクリックします。

2 [アプリケーション]フォルダの中の[ユーティリティ]フォルダを開きます。

3

［ディスクユーティリティ］をダブルクリックします。
［ディスクユーティリティ］が起動します。

4 フォーマットするMOディスクを挿入します。

5

フォーマットするディスクをクリックします。

6

① フォーマットするディスクの情報を確認します。ディスクの情報は挿入したディスクによって異なります。

② ［パーティション］タブをクリックします。

7

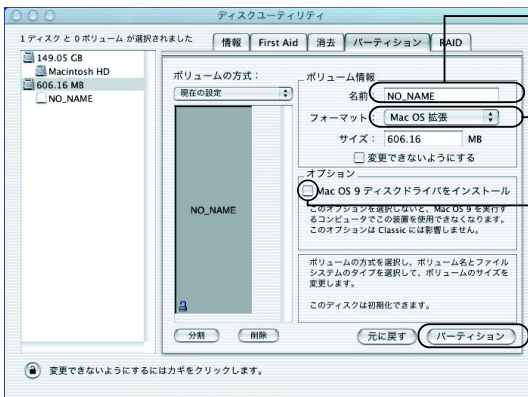
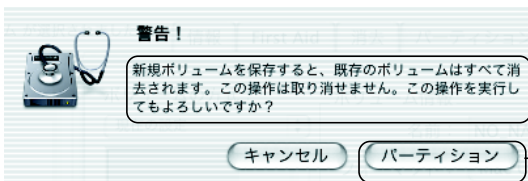
① MO ディスクに名前をつける場合はここに入力します。

② フォーマット形式を選択します。

③ □をクリックし、チェックをはずします。

④ ［パーティション］をクリックします。

メモ **選択可能なフォーマット形式は次のとおりです。**
Mac OS 標準:Mac OS 8.1よりも前のシステムで使用できます。
Mac OS 拡張:Mac OS 8.1よりも前のシステムでは使用できません。
Unixファイルシステム:使用しないでください。

8

① メッセージを読みます。

② ［パーティション］をクリックします。

MOディスクがフォーマットされます。フォーマットが終わったら「ディスクユーティリティ」は終了してください。

5 付録

付属ユーティリティ、困ったときの対処方法、本製品の仕様についてここでは説明しています。

MO ディスク間のコピー（WindowsMe/98SE/98）

本製品付属の「MOコピー」を使用すれば、1台のMOドライブで、MOディスク間のコピーが簡単にできます。

- MOコピーは、他のアプリケーション（エクスプローラなど）をすべて終了してから操作してください。
- 誤ってコピー元のMOディスクを上書きしないよう、コピー元のMOディスクは書き込み禁止にしておくことをおすすめします。【P13】

制限事項

● コピーは同じ容量のMOディスク間でだけ行えます。コピー元とコピー先のMOディスクの容量が異なる場合はコピーできません。

例）・コピーできる
640MBのMOディスク→640MBのMOディスク
・コピーできない
230MBのMOディスク→640MBのMOディスク

メモ Windows標準のディスクコピー機能は、MOディスク間のコピーには対応していません。

● ハードディスクドライブを経由してデータをコピーするため、コピーするMOディスクの容量以上の空き容量が1台のハードディスクに必要です。

● ファイルフォーマットがFAT16形式のMOディスクを使用している場合にだけ、高速でコピーできます。

● MOコピーの起動中は、エクスプローラや［マイ コンピュータ］からMOディスクの内容を見ないでください。
見ようとすると、「ファイルシステムエラーです」というエラーメッセージが表示されます。その場合はMOコピーを終了し、再度エクスプローラや［マイ コンピュータ］からMOディスクの内容を見てください。

● 本製品以外でのMOコピーの使用は、弊社では保証しておりません。

● 「MOコピー」はWindowsMe/98SE/98用です。WindowsXP/2000にはインストールできません（対応していません）。

コピー手順

1 ［スタート］－［プログラム］－［BUFFALO］－［MO ユーティリティ］－［MOコピー］を選択します。

2

① コピーに使用するMOドライブ（本製品）を選択します。

② ［開始］をクリックします。

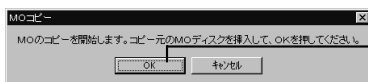
次のページへ続く

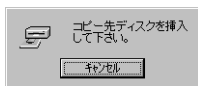
メモ　パーシャルコピー機能について

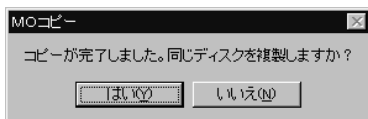
［パーシャルコピー機能を使用する(P)］のチェックマーク（✓）を付けた状態（初期状態）で［開始(S)］をクリックすると、ファイルデータだけがコピーされます。そのため、コピーにかかる時間が短くなります。
チェックマークを外した場合、コピー元のMOディスク内にあるすべての情報がコピーされます。

> パーシャルコピー機能は、次のMOディスクをコピー元としたときに使用できます。
>
> ・本製品付属の「MOフォーマット」でFAT16形式フォーマットしたMOディスク
>
> 次のMOディスクをコピー元にした場合、パーシャルコピーはできませんので、チェックマークは外してください。
> ・「MOフォーマット」以外のフォーマッタでフォーマットされたMOディスク
> ・FAT16形式以外のフォーマット形式（FAT32やNTFSなど）のMOディスク
> ・Macintoshフォーマット（HFSなど）のMOディスク

3 コピー元のMOディスクを本製品にセットします。

4

［OK］をクリックします。

3 コピー先のMOディスクを本製品にセットします。

自動的にMOディスクが検出され、ファイルがコピーされます。

6

同じ内容をさらに別のMOディスクにコピーするときは［はい］をクリックします。MOコピーを終了するときは［いいえ］をクリックします。

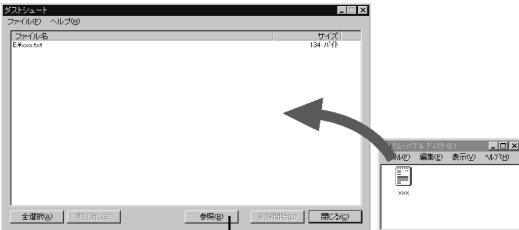
以上でコピーは完了です。

MO ディスク内のファイルの削除（WindowsMe/98SE/98）

本製品付属の「ダストシュート」を使用すれば、MO ディスク内のファイルを完全に削除できます。
ダストシュートで削除したファイルは、ファイル復旧ユーティリティや DOS の Undelete コマンドでも復旧できないため、機密データの削除に最適です。

メモ Windows上の操作で削除したファイルは、ファイル復旧ユーティリティやDOSのUndeleteコマンドで復旧できることがあります。

制限事項

- ダストシュートで削除したファイルは、ファイル復旧ユーティリティや DOS の Undelete コマンドでは復旧できません。
  必要なデータは絶対にダストシュートでは削除しないでください。
- ダストシュートはファイルフォーマットが FAT16/32 形式の MO ディスクの場合にだけ使用できます。
- フォルダを削除することはできません。
- ダストシュートで削除できるのは MO ディスク内のファイルだけです。
  ハードディスクドライブなど他のメディア内のファイルは削除できません。
- ダストシュートによるデータの削除後もファイル名の痕跡だけは残ります。
  ファイルの実体は残りません。
- 本製品以外でのダストシュートの使用は、弊社では保証しておりません。
- 「ダストシュート」はWindowsMe/98SE/98用です。WindowsXP/2000にはインストールできません（対応していません）。

削除手順

1 ［スタート］－［プログラム］－［BUFFALO］－［MO ユーティリティ］－［ダストシュート］を選択します。

デスクトップ画面上の［ダストシュート］アイコンをダブルクリックしても起動できます。

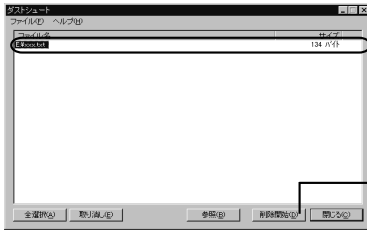
2 削除したいファイルの入った MO ディスクを本製品に挿入します。

3 削除するファイルをダストシュートの画面にドラッグ＆ドロップします。

［参照］をクリックして、削除するファイルを選択することもできます。

次のページへ続く

5 付録

4

① 削除するファイルを選択して反転表示にします。

② ［削除開始(D)］をクリックします。

複数のファイルを削除するときは、［全選択(A)］をクリックしてすべてのファイルを選択してから［削除開始(D)］をクリックします。また、<Shift>キーまたは<Ctrl>キーを押しながらマウスをクリックして、複数のファイルを選択することもできます。

5

［はい(Y)］をクリックします。

ファイルが削除されます。

6

さらに他のファイルを削除するときは［いいえ］を、ダストシュートを終了するときは［はい］をクリックします。

以上でファイルの削除は完了です。

メモ 上記の手順以外にも、次の方法でダストシュートによるファイルの削除ができます。

※ 次の方法の場合、削除するファイルが下の方の階層にあると、同時に複数のファイルを削除できないことがあります。その場合は、複数回に分けてファイルを削除してください。

＜方法1＞

① エクスプローラや［マイ コンピュータ］でMOディスクの内容を表示し、削除したいファイルを右クリックします。
② 表示されたメニューから［送る(N)］－［ダストシュート］を選択します。
③ 「...個のファイルを削除します」と表示されたら、［はい(Y)］をクリックします。
④ 「指定されたファイルの削除が終了しました」と表示されたら、［OK］をクリックします。

＜方法2＞

① デスクトップ画面上の［ダストシュート］アイコンに、MOディスク内の削除したいファイルをドラッグ&ドロップします。
② 「...個のファイルを削除します」と表示されたら、［はい(Y)］をクリックします。
③ 「指定されたファイルの削除が終了しました」と表示されたら、［OK］をクリックします。

コニカ サウンドピクチャーディスク SE お試し版について（WindowsXP/2000/Me/98SE）

本製品に付属のコニカ サウンドピクチャーディスクSEは、お試し版のためサポート対象外となります。弊社およびコニカミノルタ社へのお問い合わせは受け付けておりません。あらかじめご了承ください。

本製品付属の「コニカ サウンドピクチャーディスクSE お試し版」を使用すれば、デジタルカメラで撮影した画像を修正したり、音声付きのスライドショーにすることができます。

●できること

- 画像を、BGM付きスライドショーで表示する。
  ※ＢＧＭを再生するには、ＭＰ３プレイヤーソフト(Windows Media player 7など)が必要です。
- 画像を一覧で表示する。
- 画像をe-メールする。
- 画像を加工する。
- インターネットで注文する(「コニカ オンラインラボ工房」から画像のプリントなどを注文できます)
  ※「インターネットで注文する」を利用するには、コニカ オンラインラボ工房をインストールしておく必要があります(P31)。インストールしていない場合、[すすむ]をクリックすると、「コニカオンラインラボ工房が見つかりませんでした」と表示されます。

●ソフトウエア動作環境

パソコン	DOS/V機(OADG仕様)、NEC PC98-NXシリーズ・PC-9821/9801シリーズ
OS	WindowsXP/2000/Me/98SE
CPU	Pentium MMX200MHz以上を推奨
メモリ	64MB以上を推奨
ハードディスク	最低限150MB以上の空き容量で動作可能(ただし、300MB以上の空き容量を推奨)。
ディスプレイ	SVGA(800X600)以上、32,000色以上
サウンド	Windows WSS1.0/2.0互換のサウンドカード
必要な周辺機器	CD-ROM、スピーカー
ソフトウェア	インターネットエクスプローラー4.01 sp2以上がインストールされていること MP3プレイヤーソフト(Windows Media Player 7.1など)がインストールされていること

・メール送信する場合:メール送信可能なプロバイダに加入していること。

●インストール方法

簡単セットアップから[コニカ サウンドピクチャーディスクSE お試し版のインストール]を選択し、開始をクリックしてください。

⚠注意 「コニカ サウンドピクチャーディスク SE お試し版」 をインストールする前に、本製品をパソコンに接続してください。 本製品が接続されていないと、「コニカサウンドピクチャーディスク SE お試し版」 はインストールできません。

● 使いかた

画面に表示されるメッセージに従ってお使いください。なお、各ボタンの上にマウスのカーソルを置くと、そのボタンの説明が表示されます。

5 付録

●コニカサウンドピクチャーディスクに関するその他のご注意、免責事項

1．スライドショーの保存及び呼び出し機能
保存したスライドショーは、ご使用のパソコンでのみ呼び出すことができます。また、MOからの画像を使ったスライドショーを呼び出し再生する場合、そのMOが挿入されていることが必要です。

2．画像データの保存及び呼び出し機能
1）本ソフトウエアにて選択した画像データまたは加工編集した画像データを任意の場所に保存する場合、保存されるファイル形式は、JPEG形式のみとなります。
2）本ソフトウエア上で呼び出すことが可能な画像ファイルは、本ソフトウエア上で呼び出すことが可能が画像ファイルは、JPEGファイル形式のみとなります。その他のファイル形式の画像を呼び出すことはできません。

3．印刷機能
1）本ソフトウエア上で選択した画像データを、お客様がお持ちプリンタなどで出力する場合、印刷後の印刷領域、プリント品質は、お持ちのプリンタユーティリティの設定に依存します。
2）お客様がお持ちのプリンタ機種によっては、ユーティリティ上の設定通りに印刷できない場合があります。
3）MOなどの中の画像から、より高画質のプリントをお求めになる場合、コニカオンラインラボでのインターネットプリント注文をお薦めします。高画質の銀塩写真プリントができます。

4．ソフトウエアのバージョンアップ
本ソフトウエアについては、今後バージョンアップする可能性もあり、スマートバージョンアップ機能（旧バージョンのアンインストールなしにバージョンアップする機能）が搭載されておりますが、万が一、前記のスマートバージョンアップができない場合は、旧バージョンをアンインストールした後に本ディスクをセットし、インストールを行ってください。

5．その他
本ソフトウエアを使用した結果、パソコンへ影響が発生した場合でも弊社は一切の責任を負わないものとします。

コニカ オンラインラボ工房について（Windowsのみ）

本製品に付属のコニカ オンラインラボ工房は、オンラインラボサポートセンターにてサポートを行います。
【オンラインラボサポートセンター】
電話番号：0120-201-990
E-mail:info@konica-lab.net
ホームページ： https://www.konica-lab.net/

本製品付属の「コニカ　オンラインラボ工房」を使用すれば、次のことを楽しむことができます。

- そのままプリント
  お客さまがお手持ちのデジタル画像を使って、高画質かつ安価な銀塩写真プリント「そのままプリント」を注文することができます。

- ポストカード＆手作りプリント
  多彩なテンプレートデザインとデジタル画像を組み合わせて、オリジナルなポストカードやカレンダーを作ることができます。

- オンラインアルバムへ保管
  お客さまがお手持ちのデジタル画像を「コニカオンラインラボ」の「オンラインアルバムサービス」に保管することができます。

●ソフトウエア動作環境

パソコン	DOS/V機(OADG仕様)、NEC PC98-NXシリーズ・PC-9821/9801シリーズ
OS	Windows 95/98/98SE/Me，Windows NT4.0 SP3以上，Windows2000/XP
CPU	Pentium以上(Pentium120MHz以上推奨)
メモリ	32MB以上(64MB以上推奨)
ハードディスク	120MB以上の空き容量を持つハードディスク
ディスプレイ	SVGA(800×600)以上、32,000色以上

・ネットプリント注文、画像保管する場合:インターネット接続環境にあること。

●インストール方法
簡単セットアップから[コニカ　オンラインラボ工房のインストール]を選択し、開始をクリックしてください。

● 使いかた
画面に表示されるメッセージに従ってお使いください。なお、各ボタンの上にマウスのカーソルを置くと、そのボタンの説明が表示されます。

メモ コニカ オンラインラボ工房についての詳しい使いかたは、ヘルプを参照してください。ヘルプは、画面に表示される[HELP]をクリックすると表示されます。

ユーティリティのアンインストール

本製品付属のユーティリティが不要になったときは、次の手順でアンインストールしてください。

Windows搭載パソコン

1 [スタート] − [(すべての) プログラム] − [BUFFALO] − [MO ユーティリティ] − [アンインストール] の順に選択します。

2 以降は画面の指示に従って操作します。

Macintosh

1 付属のユーティリティCDに収録されている [MO-CU2シリーズユーティリティ] アイコンをダブルクリックします。

2 「処理を選択して下さい。」というメッセージが表示されたら、[アンインストール] をクリックします。

3 「アンインストール完了後に再起動しますがよろしいですか。」というメッセージが表示されたら、[はい] をクリックします。

4 「アンインストールに成功しました。」というメッセージが表示されたら、[再起動] をクリックします。

パソコンが再起動したら、アンインストールは完了です。

メディアIDについて

本製品はメディアID付きMOディスクに対応しています。ここではメディアIDについて説明します。

⚠注意 MacOSでは、メディアIDに対応していません。

メディアIDとは

固有の番号(メディアID)付きのMOディスクを使用することで、ホームページなどで配信されている音楽・映像データなど、著作権を保護したまま保存する機能です(メディアIDが付いていないMOディスクでは、著作権保護されたデータを保存することはできません)。

またメディアID付きMOディスクは、著作権に関係の無いデータも従来通り保存することができます。

メディアID付きMOディスクには マークがついています。

メモ 詳しくは、弊社ホームページ(http://buffalo.melcoinc.co.jp/pd/mediaid/index.html)のメディアIDについての解説ページを参照ください。

メディアIDドライバのインストール

メディアID付きMOディスクを使用して、著作権が保護してあるデータを保存するには、あらかじめメディアIDのドライバをインストールする必要があります。次の手順でインストールしてください。

1 **付属のユーティリティCDをCD-ROMドライブにセットします。**

簡単セットアップが起動します。

※起動しないときは、ユーティリティCD内の「Easysetup.exe」ファイルをダブルクリックしてください。

2 **簡単セットアップメニューから、[メディアIDドライバのインストール]を選択して、[開始]をクリックします。**

以降は画面の指示に従ってインストールしてください。

以上でインストールは完了です。

メディア ID 対応 MO ディスクへの保存

メディアIDに対応したソフトウェアを使用して保存します。ここではWindows Media Player 9を例に説明します。Windows Media Player9は、Microsoft社のホームページから無償ダウンロードできます。

メモ MOディスクに保存したいデータ(音楽など)をホームページからハードディスクにダウンロードしておいてください。ダウンロードはホームページの指示に従ってライセンスの発行・支払い手続きを行ってください。

1 メディア ID 付きMO ディスク(フォーマット済み)を本製品にセットします。

2 Windows Medeia Player 9を起動します。

※起動する前にMO ディスクを必ず本製品にセットしてください。

3 [デバイスへ転送]をクリックします。

4 [デバイス上の項目]から本製品(MOドライブ)を選択します。

5 [転送する項目]からコピーしたい項目をクリックし、チェックマークをつけます。

6 [転送]をクリックします。

※MO ディスクへコピーできる回数、コピーしたMO ディスクから再生できる期間などは、データ元の販売条件によって異なります。

※データ元の販売条件によってはメディア ID 付きMO ディスクでもコピーできないことがあります。

以上でMOディスクへの保存は完了です。

困ったときは

本製品が認識されない（ドライブアイコンが表示されない）

USBケーブルが本製品やパソコンに正しく接続されているか確認してください。

MO ディスクに書き込めない

MOディスクのプロテクトノッチが書き込み禁止になっていないか確認してください。プロテクトノッチを書き込み許可の位置にしてください。

アクセス時に「ドライブの準備ができていません」というメッセージが表示される

MOディスクが正しく本製品に挿入されているか確認してください。
MOディスクの挿入後、アクセスランプがオレンジ色に点灯している間はドライブは準備中です。アクセスランプが緑色に点灯してから操作を行ってください。

MO ディスクが取り出せない

アクセスランプが消灯しているときは、イジェクトボタン押してもMOディスクは排出されません。
Macintoshの場合は、MacOS終了時に自動でMOディスクが排出されますが、機種によっては排出されないことがあります。「MOディスクが取り出せないとき」【P13】を参照して、強制的にMOディスクを取り出してください。

空き容量はあるが MO ディスクにファイルをコピーできない

FAT16形式でフォーマットされたMOディスクの場合、ルートディレクトリに記録できるファイルの数には上限があります（ロングファイル名のファイルがない場合に最大512個）。

そのため、MOディスクに空き容量があるにもかかわらずファイルがコピーできない場合は、ルートディレクトリにあるファイルを1つ削除してフォルダを作成してください。その後、そのフォルダ内にファイルをコピーしてください。

特定のソフトウェアで本製品が使用できない

パソコンに標準搭載されているドライブ専用に作られたソフトウェア（※）上で、本製品を使用できないことがあります。

その場合はパソコンに標準搭載のドライブ（ハードディスクなど）を使用するか、他のソフトウェアを使用してください。

※ソフトウェアの仕様はソフトウェアメーカ（プリインストールソフトではパソコンメーカの場合があります）にご確認ください。

Macintosh で MO ディスクをセットしてもすぐに排出される

メディアを入れたままのカードリーダー(弊社製MCRなど)と併用した場合、本製品に未フォーマットのMOディスクを挿入するとすぐに排出され、MOディスクをフォーマットできません。

カードリーダー内のメディアを取り出してからフォーマットしてください。

簡単セットアップを完了しても MO ドライブのアイコンが表示されない

WindowsMe/98SE/98

ドライバが正しくインストールされていない可能性があります。
別紙「はじめにお読みください」に記載の手順に従って簡単セットアップでドライバを再度インストールしてください。

WindowsXP/2000

ACアダプタ、USBケーブルが接続されていない可能性があります。ACアダプタ、USBの接続を確認してください。

WindowsXP での書き込み速度が遅い

本製品をWindowsXP搭載パソコンに接続すると、書き込みキャッシュ(*)が無効になります。WindowsXPで本製品の性能を発揮するには、次の手順で書き込みキャッシュを有効に変更してください。

*ドライブのキャッシュとパソコンのメモリを使用して書き込み時の処理速度を向上させる機能です。
*出荷時設定では有効になっています。また、WindowsXP以外のOSでは、無効に切り替わることはありません。

① [スタート]をクリックします。
② 表示されたメニューから、[マイコンピュータ]を右クリックします。
③ [管理]をクリックします。
④ [デバイスマネージャ]をクリックします。
⑤ [ディスクドライブ]をダブルクリックします。
⑥ [KONICA OMD-xxxxx USB Device]をダブルクリックします。
　下線部は製品によって表示が異なります。
⑦ [ポリシー]をクリックします。
⑧ [パフォーマンスのために最適化する]をチェックします。
⑨ [ディスクの書き込みキャッシュを有効にする]をチェックします。
⑩ [OK]をクリックします。

以上の手順で書き込みキャッシュは有効になります。

WindowsXPに接続して、書き込みキャッシュの設定が無効になってしまった本製品を他のOSで使用するときは、本製品のイジェクトボタンを押しながら電源をONにすることで有効にすることができます。
手順は次のとおりです。

① ACアダプタを本製品に接続します。
② ACアダプタをコンセントに差し込みます。
③ パソコン本体の電源スイッチをONにします。
④ イジェクトボタンを押したまま本製品をパソコンに接続します(PC連動AUTO電源機能により、自動的に本製品の電源がONになります)。

以上の手順で書き込みキャッシュは有効になります。

本製品を接続したら画面全体が青くなり何も操作できなくなった（WindowsMe）

WindowsMeでは、簡単セットアップでドライバをインストールする前に本製品を接続するとシステムが停止することがあります。このようなときは、USBケーブルを抜きパソコンの電源をOFFにしてください。続いて別紙「はじめにお読みください」に記載の手順に従って簡単セットアップでドライバをインストールしてください。

USBハブを使用すると本製品が認識できない

USBハブによっては、本製品を認識できない、または正常に動作しないことがあります。このようなときは、本製品をパソコン本体のUSBコネクタに直接取り付けてください。

Mac OS X 10.1 でMO ディスクをマウントできない

Mac OS X 10.1をお使いの場合、MOフォーマットでFAT32形式にフォーマットしたMOディスクをマウントすることができないことがあります。MOフォーマットでフォーマットしたMOディスクをMac OS X 10.1で使用する場合は、FAT16形式でフォーマットしてください。

本製品を接続したままMacintoshを起動すると本製品が正常に認識されない

USB2.0搭載のMacintoshをお使いの場合、本製品は、パソコンが起動した後に接続してください。
本製品を接続したままパソコンを起動または再起動すると、本製品が正常に認識されないことがあります。
その場合は、以下の手順で再度接続してください。

1．MacOSを終了します。

2．本製品からACアダプタを取り外します。

3．本製品をパソコンから取り外します。

4．MacOSを起動します。

5．MacOSが起動したら本製品のACアダプタを取り付けます。

6．本製品をパソコンに接続します。

動作環境

温度　5～35℃

湿度　20～80%(結露なきこと)

消費電力

最大　11W　　　平均　7.5W(ランダムリードライト時)

※最新の製品情報や対応機種、対応OSについては、カタログまたはインターネットホームページ(buffalo.jp)をご参照ください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
万一、障害が発生したときは、次の対策を行ってください。

・本製品とテレビやラジオ双方の距離を離してみる
・本製品とテレビやラジオ双方の向きを変えてみる